

指導行政のポイント

土曜日の補習授業

菱村 幸彦

週末の過ごし方をどうするか

このところ、こんなニュースが続いた。

1月31日付「読売新聞」 東京都台東区の教育委員会は、区内の中学生の希望者を対象に「土曜スクール」を開設する。土曜日の午前中3時間程度、各学校の教室を利用して、国語、数学、英語などを指導する。講師は教員免許を持つ地域住民や大学生のボランティアが当たる。

2月4日付「読売新聞」 文部科学省は、土・日曜日の子どもの体験活動の場の提供について、学習塾側に協力を要請する初の協議会を開いた。協議会には中小学習塾経営者や大手進学塾代表ら100人以上が参加した。文部科学省は、塾側に「自然体験、理科実験充実への協力」や「学力向上への助言」などを求めた。

2月6日付「読売新聞」 埼玉県深谷市は新年度から、市内の小・中学校で児童・生徒の希望者に、毎週土曜日に学習指導を行うことを決めた。学習指導は午前中に各学校で1クラス2人の講師を配し、教科書に沿った指導をする。講師は教員免許を持った非常勤講師や教員のOBが主体で、月2回は各校の教師も参加する。

2月9日付「産経新聞」 全日本中学校長会の調査によると、学校五日制の実施について、中学校長の7割が「学力が低下する」と考え、5割が「塾通いの増加」を予想していることがわかった。予想される生徒の週末の過ごし方では「テレビやゲーム、マンガなどで過ごす時間が増える」(90.4%)、「ゲームセンターやカラオケに行く機会が増える」(47.1%)が多く、週末への懸念として、「土曜日に保護者不在の家庭が心配」(86.3%)、「生徒が参

加できる地域社会の活動が少ない」(94.7%)などと答えている。

“学びのすすめ”も補習是認

学校五日制がスタートしたとき(平成4年)、全国的に土曜日の受け皿をどうするかが懸案となった。当時は、学校五日制の趣旨から、土曜日に授業をするなどもってのほか、という雰囲気が強かった。

しかし、近年の学力低下の懸念への対応もあり、このところ休日となる土曜日の過ごし方の一つとして、学校施設を利用した補習授業があってもいいのではないかという流れになりつつあるようだ。前記のニュースも、それを示している。

過日、文部科学大臣が発表した“学びのすすめ”では「放課後の時間などを活用して、補充的な学習や児童生徒の主体的な学習を支援する」ことを勧めている。この「放課後の時間など」に土曜日が入るのかどうか。文部科学省としては、通常の授業と同じような形で土曜日に授業をすることをよしとするわけにはいかないだろう。

しかし、中学校長会の調査にあるように、学校五日制で学力が低下するのでは、と懸念を抱く人は少なくない。また、予想される児童・生徒の週末の過ごし方には、さまざまな不安がある。

とすれば、ふだんの授業とは別に、自然体験や理科実験中心の授業や、学習の遅れがちな児童・生徒への補習授業などを、教育委員会や学校が主体的判断で行うことは、地方分権の観点から、望ましいことではないか。

(ひしむら・ゆきひこ=公立学校共済組合理事長)

最新刊! 菱村 幸彦 著
学校経営と法律の接点 B6版270頁2625円

予約受付中! 10年間の審議会重要答申・統計資料・新法令・通知通達等を整理収録! 教育開発研究所・刊

創刊30周年記念増刊『教職研修‘02情報版』菱村幸彦監修

各学校・教委に1冊常備の資料大全 【資料CD ROM】添付 4月増刊・B5判300頁・定価2,730円

研修誌・図書の小社への直接のお申し込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)